

静岡・焼津 全国高校生平和集会

ビキニ事件70年を学ぶ



久保山愛吉さんの墓前で黙とうする人たち。3月27日、静岡県焼津市

1954年、米国が太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で核実験を行い、第五福竜丸をはじめ日本のマグロ漁船などのべ1400隻が被災したビキニ事件から70年。第五福竜丸が帰港した静岡県焼津市内で3月27、28の両日、全国高校生平和集会が開かれ、ビキニ事件を学び、交流しました。焼津で同集会が開かれるのは初めてです。

各地から集まった高校生たちは、焼津市歴史民俗資料館で特別展示されている第五福竜丸の歴史を見学し、第五福竜丸が帰港した港や久保山愛吉さんと妻のすずさんが眠るお墓などを訪れました。

考え・声あげ・広げたい

「知らなかった」

広島の高校生は「広島や長崎の原爆被害は学びますが、ビキニ事件のことは知りませんでした。放射能を含む白い灰により、内部被ばくすることを知りませんでした。核兵器はなくさなくてはいけない」と語りました。

同集会に参加した沖繩、広島、愛知、埼玉、東京、静岡の高校生は焼津市内でそれぞれの取り組みを報告。静岡エバークリーンは四つの高校の取り組みを披露。焼津高校演劇部が久保山愛吉・すずさんの物語を朗読劇で演じました。

東京の代表は、ロシアのウクライナ侵略、イスラエルによるガザ攻撃に抗議の声をあげたことや、日本政府に核兵器禁止条約への参

加を求める署名を2025年までに3000人分集めることを目標に活動していく決意を語りました。沖繩の代表は、沖繩にも水爆実験の被災船があったと紹介。しかし、アメリカの占領下だったため放射線検査もされなかったことなどを報告しました。2日間の学び、交流を通して、「自分の頭で考えられる人になりたい」「おののくことなく、声をあげていきたい」「政治に関心がない感じの人が多くいて、自分たちが楽しみながら学んでいることを知らせていきたい」「周りに説明できるように学びたい」などの感想が出されました。第五福竜丸船員の故・大石又七さんの義姉の河村恵子さん、ビキニ事件のときに13歳で友人と署名活動を始めた杉村征郎（いくお）さん、ビキニ被災船訴訟を支援する医師の間間元さんらの報告を聞き交流しました。

自分事として…グループ討論

七つのグループに分かれ、それぞれ講師を交えて討論しました。

被災船員訴訟を支援する会の共同代表の一人の間間元さんが、5人の高校生に語りました。

反核医師の会全国世話人で、県内外の原爆被爆者の検診やビキニ被災船員の調査をしてきた医師、ビキニ

「ビキニ事件は人権問題。時効はない」と指摘し、国の謝罪が必要だと語



グループ討論で間間元さんの話を聞く人たち。3月28日、静岡県焼津市内

りました。さらに「被災した船員は当時17歳〜20歳の皆さんと同世代の漁師だったことを忘れないで」と述べました。

事件後は、船主さんから魚の値段が下がるから黙っているように言われた若者

「平和ゼミナールの仲間がもっと多い方がいいと思う。人数が多くなると知名度が上がるし、政治に関心のある同世代と政治の話をしていけたらと思う」「署名に足を止めてもらうために説明する知識がない。否定する意見も含めて受け入れながら、学んでいきたい」と交流しました。